

History

キラリを再発見

茶園改植中に発見された横穴

穴口横穴は、比木公民館西側にある丘陵の南側斜面に立地し、昭和63年7月12日に茶園改植中に1基の横穴が発見され、翌年の8月1日から9月17日まで、発掘調査が行われました。

平面形は胴張方形もしくは壺形で、断面形はドーム状となっています。遺体を埋葬した玄室の幅は2.2[㍍]、高さ1.8[㍍]、奥行き1.9[㍍]です。入り口から玄室まで続く羨道部は、長さ1.4[㍍]、幅0.8[㍍]、高さ1～1.2[㍍]で、この羨道部には人の頭位の大きさの河原石が4段ほど積まれていました。人が入らないように封鎖する目的で設置した閉塞石で、ほぼ完全に封鎖された状態で残っていたことから、未発掘の状態であったと思われます。

発見された副葬品は、古墳時代後期（7世紀中頃）から奈良時代（8世紀初頭）の土師器や須恵器が出土しています。土師器は口径が16[㍍]の坏で、赤色顔料が全面に塗られ、内面に暗文が認められます。

発掘調査が行われた場所には現在、「穴口古墳」と刻んだ石碑が建てられています。

照会 社会教育課 ☎0548③1129



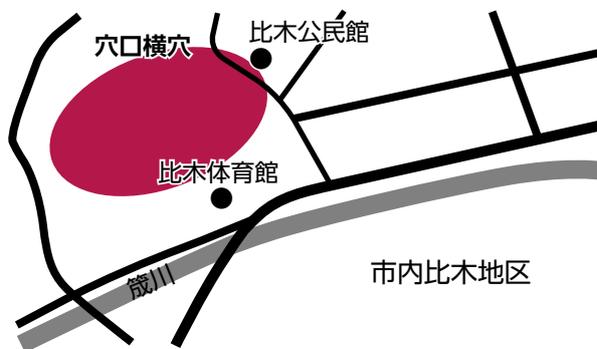
▲穴口横穴の河原石による閉塞状況



▲玄室内の遺物の出土状況



▲穴口横穴の現状



埋蔵文化財包蔵地 穴口横穴

今回の事象は、5号機の点検作業で停止位置とした二つのスイッチを作業終了の際に一つのスイッチの復旧を忘れたことや情報共有の不備などにより発生したものでした。

水谷総合事務所長からは、スイッチの復旧忘れに至った直接的な原因の対策として「それぞれのスイッチに管理札を付ける」や「機器の待機状態確認の強化」といった対策を図るとも



中部電力の浜岡原子力発電所5号機の非常用ディーゼル発電機で、人為的ミスによる原子炉施設保安規定の運転上の制限を逸脱する事態が続いたことについて昨年11月12日、再発防止と適正管理を要請した石原茂雄市長に対し、水谷良亮浜岡原子力総合事務所長は2月4日、再発防止対策などを文書で報告しました。

に、今回の事象の背後に潜んでいる要因がないか踏み込んだ分析を行い「適切な指示を徹底」「情報共有の徹底」「業務負荷の適正化」といった改善策を講じると報告されました。

石原市長は、「改善策をしっかりと実施し、今後は人的ミスのないようにはっきりやってほしい」と伝えました。

Atomic

暮らしと原子力

浜岡原子力発電所の 適正な管理について